

乳がんという体験を経て、 早期発見の大切さを説く日々



あけぼの会埼玉支部 支部長 持田豊子さん

あけぼの会は、乳がんの体験者のつどいとして1978年に発足しました。埼玉支部は1994年に会員約160名で発足。現在は、370名ほどになります。

持田さんご自身も1989年に乳がんを患いました。「当時は正社員として働きながら家庭では妻として、そして二人の中学生の母親としてがんばっていただけに、乳がんがわかったときは大変なショックでした。入院中はもちろんですが、退院後も『がん』に対する恐怖感が強く、なぜ自分だけがこんな目に会うのかと思ひ、うつ状態になりました。そんな時、家族の勧めもあつて、あけぼの会の活動に参加するようになりました。」

あけぼの会は、患者同士の交流会をはじめ、定期的に講演会やセミナーを開催しています。持田さんも初めて参加した講演会で、乳がんを経験した人たちがいきいきしている姿を見て「自分も生きられるのでは？」と希望を持ったそうです。同じ病気の人の言葉に慰められ、やつと心の荷物を置くことが出来たといいます。

当時、あけぼの会には埼玉県に支部がなかったため、地元にも交流の場が欲しいという声が高まり、埼玉支部が発足しました。以来、ずっと持田さんが支部長を務めています。支部では患

者同士の交流会を2、3ヶ月に一回開催、また、一般の方でも参加できる講演会を定期的に開催しています。医師の協力により、専門的な内容の講演をしていただいているそうです。

あけぼの会の大きな特徴として、乳がん早期発見のための啓発活動があります。早期発見することで、再発率や死亡率も低くなります。毎年5月の母の日に、検診を勧める街頭キャンペーンなどを全国的に実施しています。日々忙しいお母さんに検診に行くよう家族から勧めて欲しい、という思いから、母の日にキャンペーンを行なっているそうです。会を立ち上げた頃と違って、あけぼの会の活動が社会的に認められてきたといいます。「最近では、講演会に家族で参加する人が増えました。妻を心配して男性が電話をしてくることもあります。心のケアが必要なこと、治療するだけでは病気が治らないことに、患者や医師をはじめ、関わっている人たちが気が付き始めています。」こう語る持田さんは、いきいきと輝いていました。

(2006年12月11日 取材)

あけぼの会埼玉支部講演会を開催します。
日時:3月4日(日)午後1時から
場所:大宮ソニックシティ23F 日本生命会議室
あけぼの会 <http://www.akebono-net.org/index.htm>

広告スペース